

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における 結果について

## ■ 令和4年度全国学力・学習状況調査の概要

### 1. 調査の目的

- ・義務教育の機会均等等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査対象及び調査方式

小学校第6学年、中学校第3学年

### 3. 調査実施日

令和4年4月19日（火）

### 4. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（小6国語・算数・理科、中3国語・数学・理科）
- (2) 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

## ■ 教科に関する調査 小学6年生 国語科

### 全体の概要

- ・全体的には県や全国平均とほぼ同じでした
- ・観点別に見ると、知識・技能については、全国平均、県平均とほぼ同じです。思考・判断・表現については、県平均とほぼ同じでしたが、全国平均より大きく下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識及び技能	・話し言葉と書き言葉との違いを理解する問題、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題に課題が見られます。	・正しく書く、正しく使うためには、漢字の意味を理解することや、漢字を使う経験を積み重ねていく必要があります。学習の振り返り、日記等の日々の指導において「正しさ」を意識させる必要があります。
思考・判断・表現	・人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題、表現の効果を考える問題に課題が見られます。	・言葉を手がかりに、その情景や思いを想像する力を育むためには、読書が有効です。また、感じたことや考えたことを友達と共有する中で、多様な価値観にふれ、自分の考えを広げ、深める経験を積み重ねることが必要です。

## ■ 小学6年生 算数科

### 全体の概要

- ・全体的には県や全国平均とほぼ同じでした
- ・観点別に見ると、知識・技能、思考・判断・表現ともに、県平均や全国平均とほぼ同じでした。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識・技能	・数量が変わっても割合は変わらない問題など、「変化と関係」領域の問題に課題がありました。	・果汁◇%の飲み物など、生活の中で割合の考え方を活用した物は多くあります。学んだことを生活の中でも活かす、確認する習慣を身に付けさせる必要があります。
思考・判断・表現	・正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述する問題に課題がありました。	・プログラミング学習の要素を含む問題であり、指示された正三角形を正しく描くための命令を記述する必要がありました。図形の意味や性質、構成する要素、構成の仕方など、学んだことを想起しながら、求められる条件に合わせて説明する、記述する経験を積み重ねる必要があります。

## ■ 小学6年生理科

### 全体の概要

- ・全体的には県や全国平均とほぼ同じでした。
- ・観点別に見ると、知識・技能、思考・判断・表現ともに、県平均や全国平均とほぼ同じでした。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識・技能	・実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ問題に課題がありました。	・実験の過程や得られた結果を適切に記録するには、問題を的確に把握し、何を記録する必要があるかについて判断することが重要です。実験や観察の場面では、その目的や方法、必要となる結果等を明確にした上で学習を展開していく必要があります。
思考・判断・表現	・問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く問題に課題がありました。	・実験や観察で得られた結果には、問題に対するまとめの根拠が含まれています。「色」「時間」「温度」「比較」…といった、まとめを書く際に必要な視点をもたせながら、学習を展開していく必要があります。

## ■ 教科に関する調査 中学3年生 国語科

### 全体の概要

- ・全体的には県や全国平均とほぼ同じでした。
- ・観点別に見ると、知識・技能、思考・判断・表現ともに、県平均とほぼ同じでしたが、全国平均をやや下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識・技能	・自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す問題、表現の技法について理解する問題に課題がありました。	・自分の考えを表現する場面では、「どのように伝わるか」といった相手意識をもつとともに、「どう伝えたいか」という思いを具現化するための技法を意識した活動を積み重ねていく必要があります。
思考・判断・表現	・場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える問題、場面と場面、場面と内容を結び付けて内容を解釈する問題に課題がありました。	・言葉を手がかりに、その情景や思いを想像する力を育むためには、読書が有効です。また、感じたことや考えたことを友達と共有する中で、多様な価値観にふれ、自分の考えを広げ、深める経験を積み重ねることが必要です。

## ■ 中学3年生 数学科

### 全体の概要

- ・全体的には県平均とほぼ同じでしたが、全国平均を大きく下回っていました。
- ・観点別に見ると、知識・技能、思考・判断・表現ともに、県平均とほぼ同じでしたが、全国平均を大きく下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識・技能	・証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題に課題がありました。	・図形の性質を考察する場面では、成り立つと予想した事柄について論理的に考察し、数学的に表現することが大切です。求められる条件を満たし、正しい数学的な表現を用いた表現を意識した記述を心がける必要があります。
思考・判断・表現	・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題に課題がありました。	・説明する問題では、正しい数学的な表現と満たすべき条件を的確に表現する必要があります。個別的な学び、協働的な学びの場面でも、「正しさ」と「満たすべき条件」を意識させていく必要があります。

## ■ 中学3年生 理科

### 全体の概要

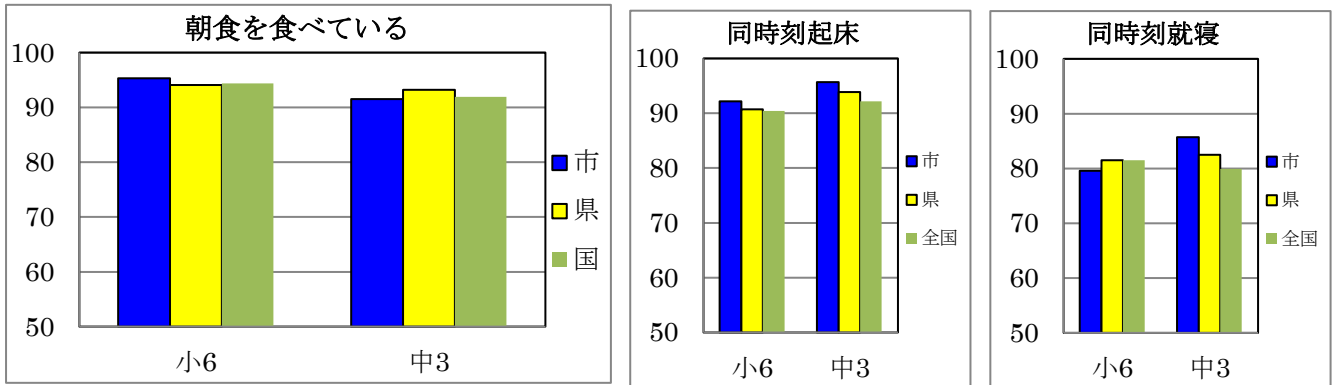
- ・全体的には県や全国平均とほぼ同じでした。
- ・観点別に見ると、知識・技能、思考・判断・表現ともに、県平均や全国平均とほぼ同じでした。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識・技能	・力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明する問題の正答率が10%台と低く、課題が見られました。	・科学的に探究する活動を通して見いだした規則性や関係性を日常生活や社会と関連付けることで、理科を学ぶことの意義や有用性を実感する経験を積み重ねていく必要があります。
思考・判断・表現	・考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する問題に課題が見られました。	・実験の計画を検討したり、改善したりするなど、考察の妥当性を高めるための工夫について考える場面を設けるとともに、見いだした工夫についての的確に表現する力を育む必要があります。

## ■ 生活習慣等に関する質問紙調査 小城市の概要・考察

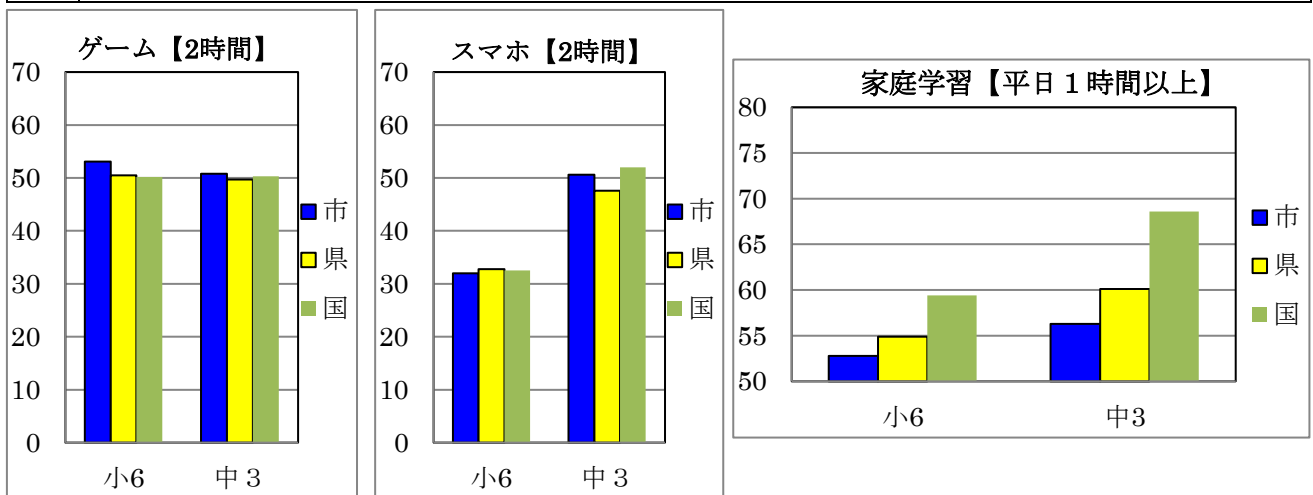
### 【 基本的な生活習慣について 】

調査の項目	
① 朝食	※している・どちらかといえばしていると答えた児童生徒の割合
② 同時刻起床	※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合
③ 同時刻就寝	※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合



・「朝食」「同時刻起床」の項目からは、基本的な生活習慣の定着が進んでいることがうかがえました。一方、「同時刻就寝」の項目からは課題も伝わってきます。生活の基盤は健康です。今後も、『早寝・早起き・朝ごはん』を合言葉に、自律的に健康的な生活習慣を維持してほしいと願っています。

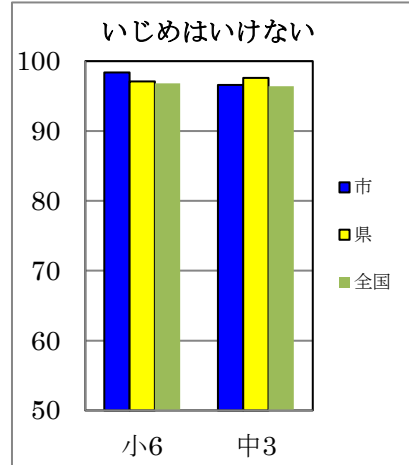
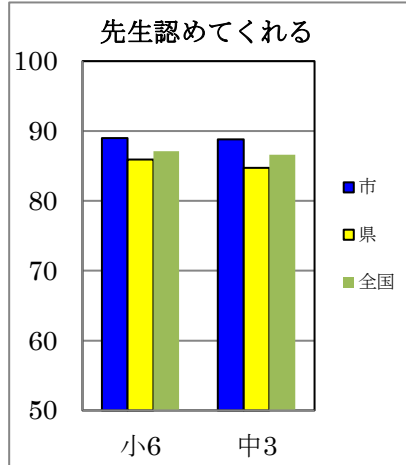
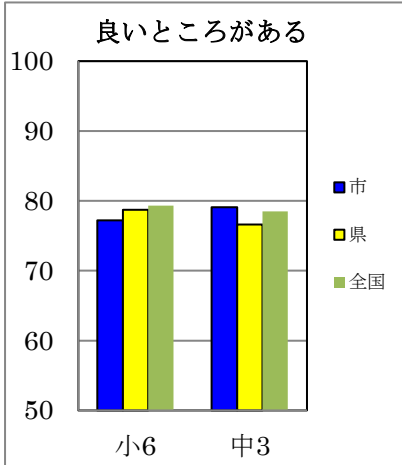
調査の項目	
④ ゲーム	※平日2時間以上学習していると答えた児童生徒の割合
⑤ スマホ	※平日2時間以上学習していると答えた児童生徒の割合
⑥ 家庭学習	※平日1時間以上家庭学習していると答えた児童生徒の割合



・限られた時間を有効に使うにはタイムマネジメント能力が必要です。なりたい自分の姿に迫るための時間、ゆったりと自分を癒す時間等、計画的に設定してほしいと願っています。このバランスは『量』だけでなく『質』も重要です。将来のワークライフバランスを考える素地を育ててほしいものです。

【 その他の項目について 】

調査の項目		
①	良いところがある	※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合
②	先生認めてくれる	※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合
③	いじめはいけない	※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合

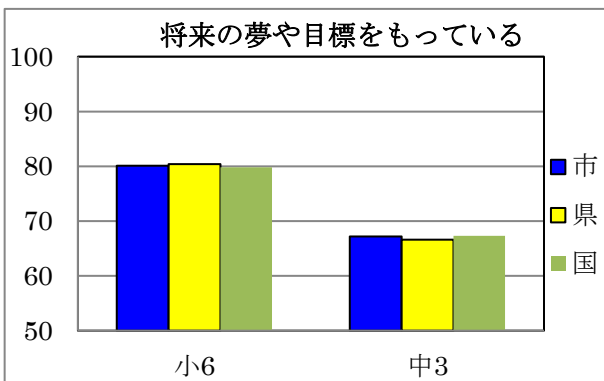


・令和の日本型学校教育の構築を目指して(答申)では、子どもたちに育むべき資質・能力として次のように示されています。

「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多種多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要」

「良いところがある」の項目からは、小中ともに約8割の児童生徒が、自分を肯定的に捉えていることがうかがえます。「先生認めてくれる」の項目については、約9割の児童生徒が肯定的に回答するなど、それぞれの学校で教師から、そして友だちから認められる場面が設けられていることが想像できます。さらに、「いじめはいけない」という項目では、9割以上の児童生徒が肯定的な回答をしており、あらゆる他者を価値のある存在として尊重する意識が高いことがうかがえます。今後も、持続可能な社会の創り手として成長して欲しいと願っています。

【 おわりに 】



・夢や目標をもつことは、成長につながる原動力です。今の姿を認め励まし、なりたい自分の姿を思い描くことのできる支援を積み重ねていきたいものです。

今後も、さまざまな場面で、『出番』『役割』『承認』のサイクルを活用し、その中で「できると思う逞しさ」と「ありのままの自分を受け入れるしなやかさ」を育む必要があると感じます。